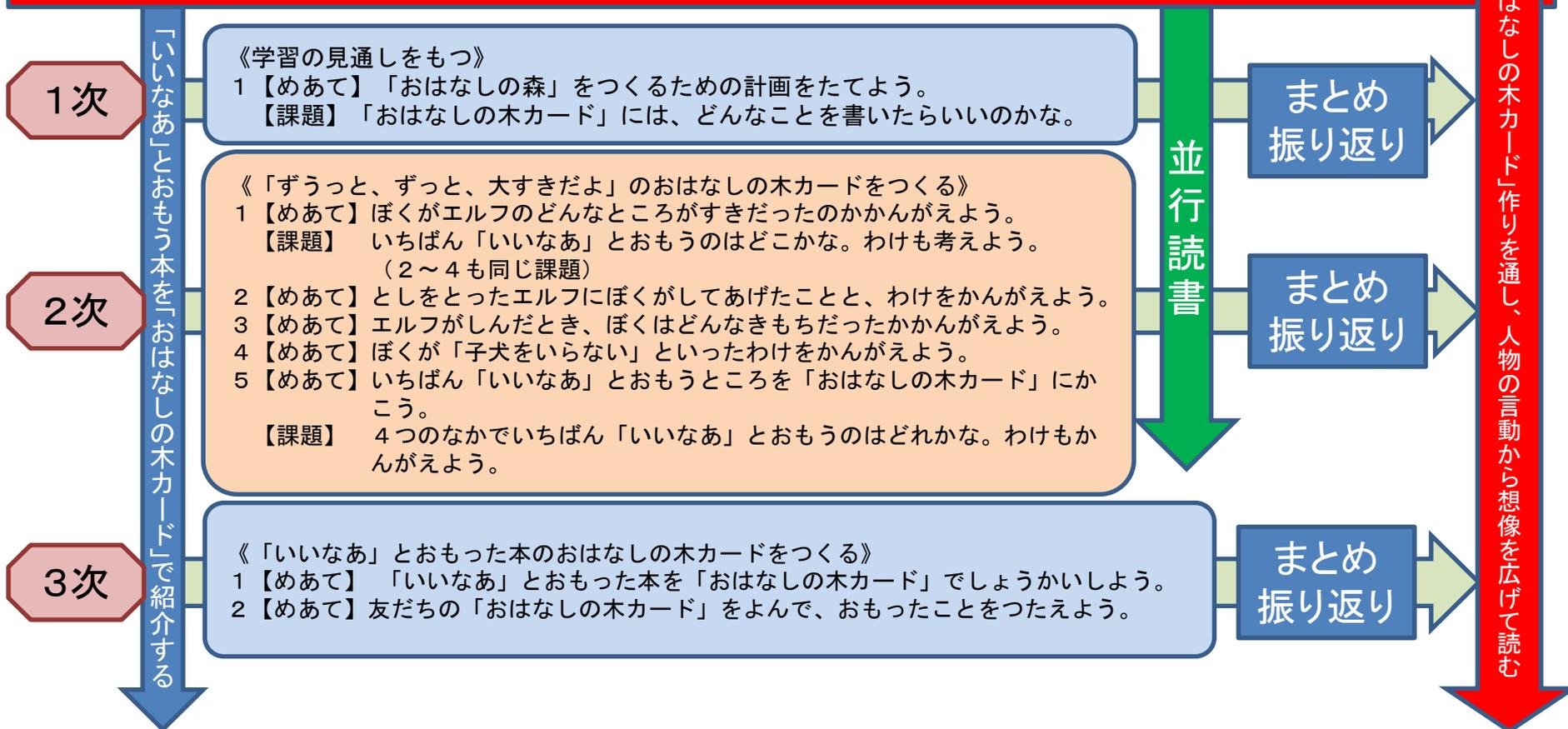


小学校国語科単元計画【第1学年：読むこと】

【単元のねらい】 場面の様子や登場人物の行動について、自分の経験と結びつけて「おはなしの木」にまとめることを通して、想像を広げながら読む力を高める

【単元のめあて】 「いいなあ」と思う本を「おはなしの森」でしようかいしあおう。

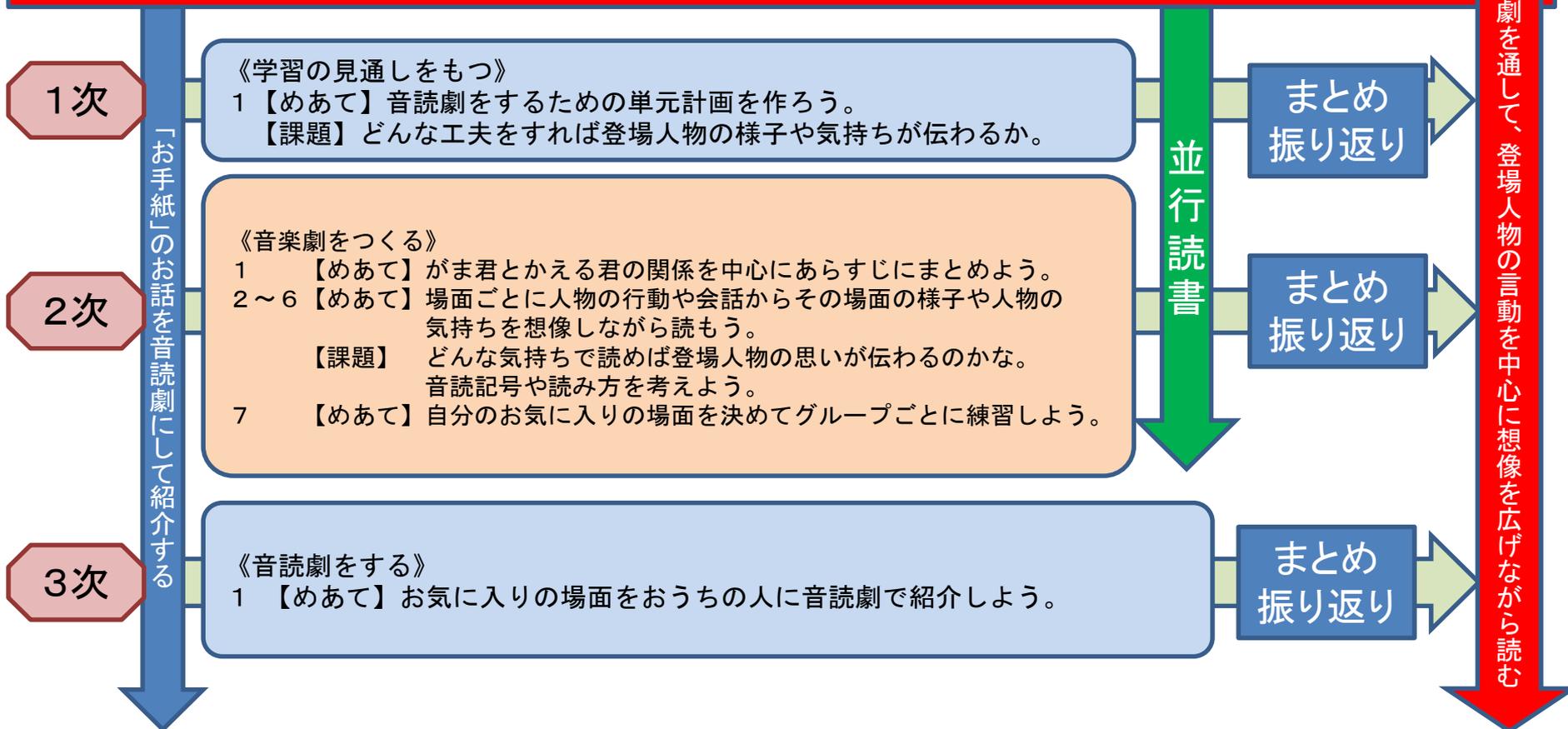


【単元の振り返り】(記述例) 自分の「いいなあ」とおもったところを伝えるには、一緒にわけも書くと伝わるのがわかった。登場人物の言ったことやしたことに気をつけて読むと、おはなしのことがよくわかる。同じ場面や同じ本を「いいなあ」と思っても、わけがちがうこともある。友だちの好きな本を読んでみようと思った。

小学校国語科単元計画【第2学年：読むこと】

【単元のねらい】 登場人物の行動や会話を手がかりにして、音読の工夫を考えながら音読劇をすることを通して、想像を広げながら読む力を高める

【単元のめあて】 お気に入りの場面を音読劇でおうちの人に紹介しよう

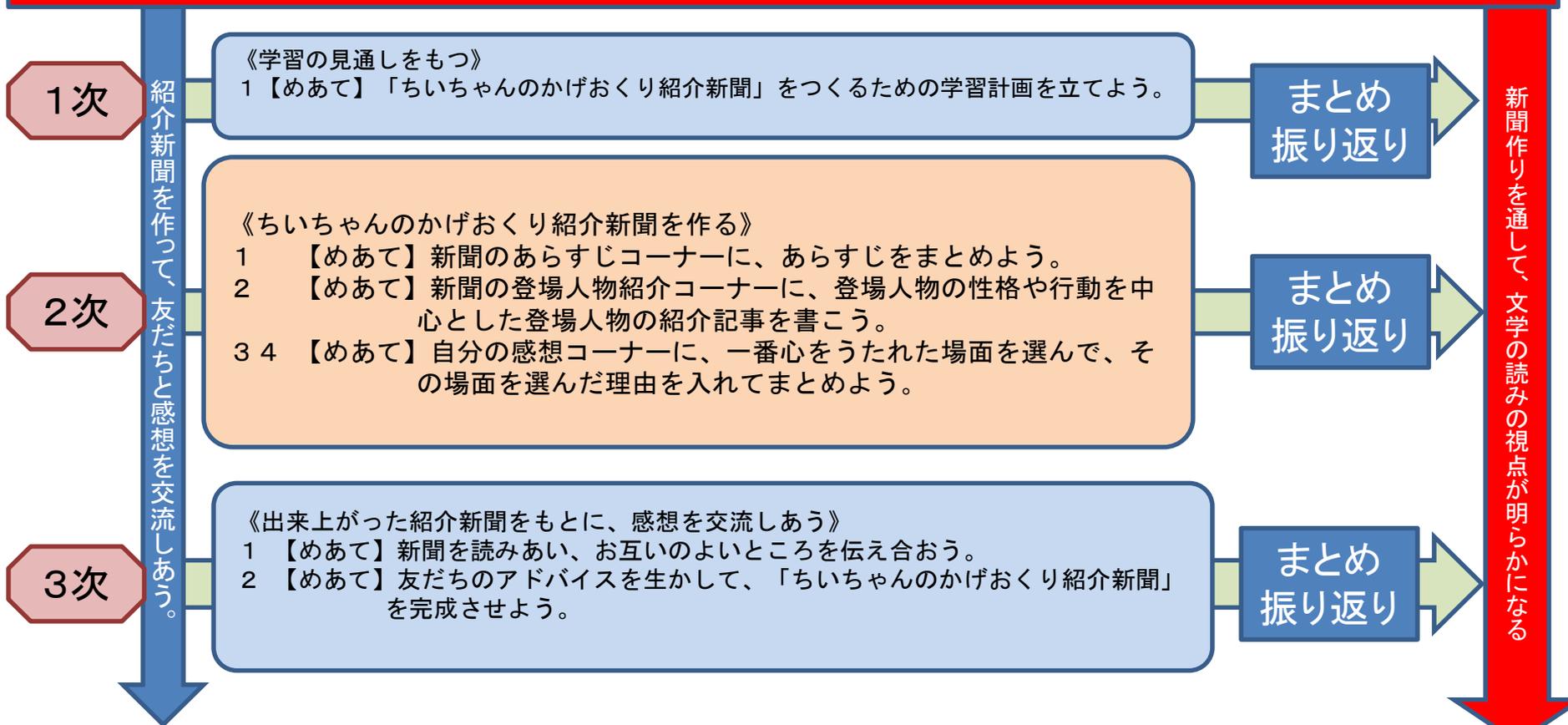


【単元の振り返り】(記述例)音読劇を効果的におこなうには、場面の様子や登場人物の行動から人物の気持ちを想像したうえで、会話文の読み方を工夫して音読すればよいことがわかった。

小学校国語科単元計画【第3学年：読むこと】

【単元のねらい】 人物の行動、情景、会話などの表現や場面の移り変わりについて、「かげおくり紹介新聞」をつくることを通して、叙述をもとに想像して読む力を高める。

【単元のめあて】 ちいちゃんのかげおくり紹介新聞を作って、感想を交流しよう。

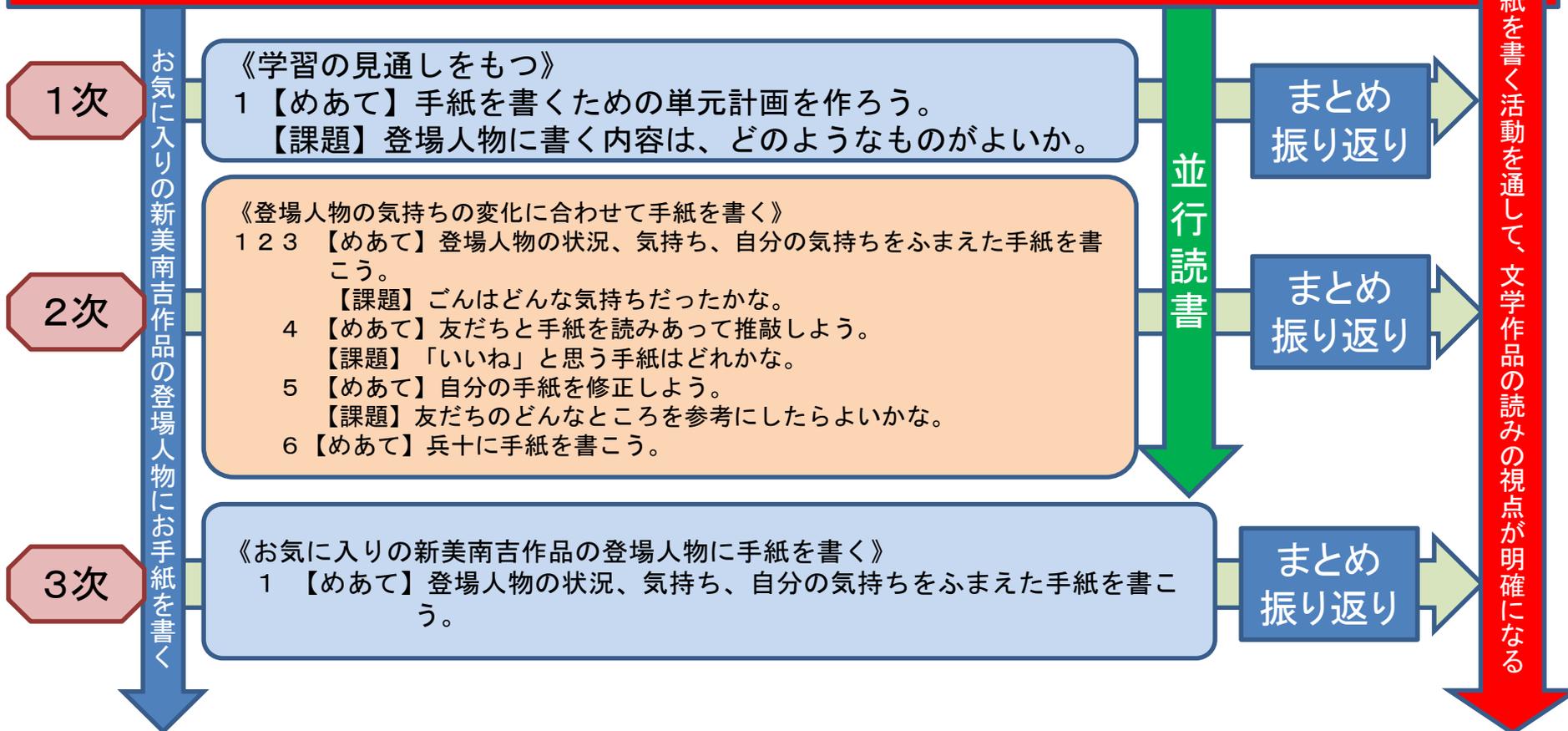


【単元の振り返り】(記述例)ちいちゃんや家族の気持ちや、その言動からわかった。ふたつのかげおくりを比べて、気持ちの変化を新聞に書くことができた。感想の部分が友だちとずいぶんちがっていて、友だちの感想を参考にして、自分の新聞に少し追加して書いた。

小学校国語科単元計画【第4学年：読むこと】

【単元のねらい】 登場人物の人物像や気持ちの変化について、登場人物への手紙を書くことを通して、叙述を基に想像を広げて読む力を高める

【単元のめあて】 新美南吉作品の登場人物にお手紙を書こう

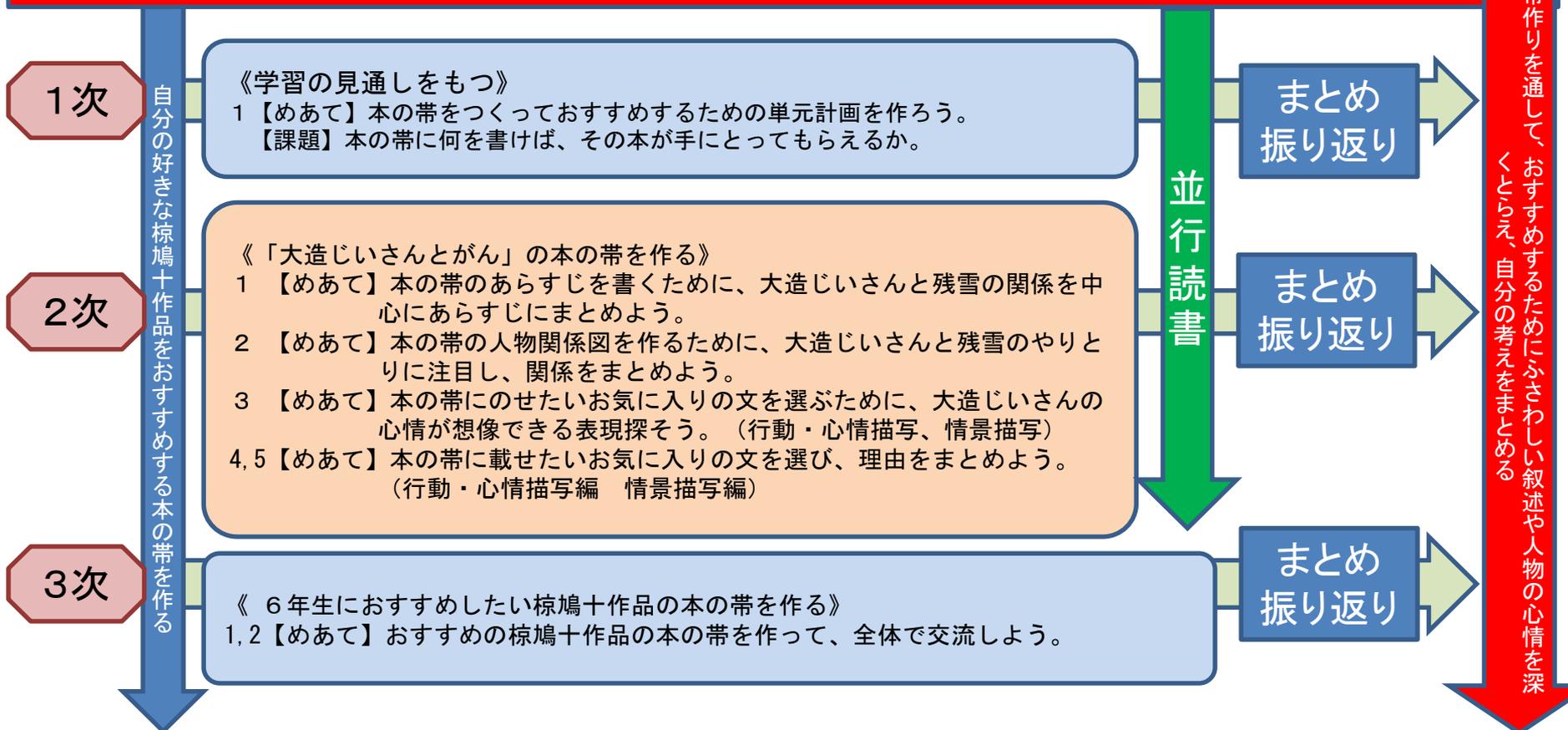


【単元の振り返り】(記述例) 登場人物の気持ちに寄り添いながら、手紙を書くことができた。登場人物に注意したい(言ってあげたい?)内容があった時も(誰の?)どんな気持ちだったかを書くことで、読み手にも受け取ることができる(わかりやすい?)手紙になった。いろんな気持ちの変化をいれた手紙になった。

小学校国語科単元計画【第5学年：読むこと】

【単元のねらい】登場人物の相互関係や心情場面について、叙述を手がかりにし、友だちとの読みの交流を参考にすることで自分がおすすめしたい本の帯を作ることを通して、自分の考えを明確にしなが読む力を高める。

【単元のめあて】本の帯を作って、椋鳩十作品を6年生におすすめしよう

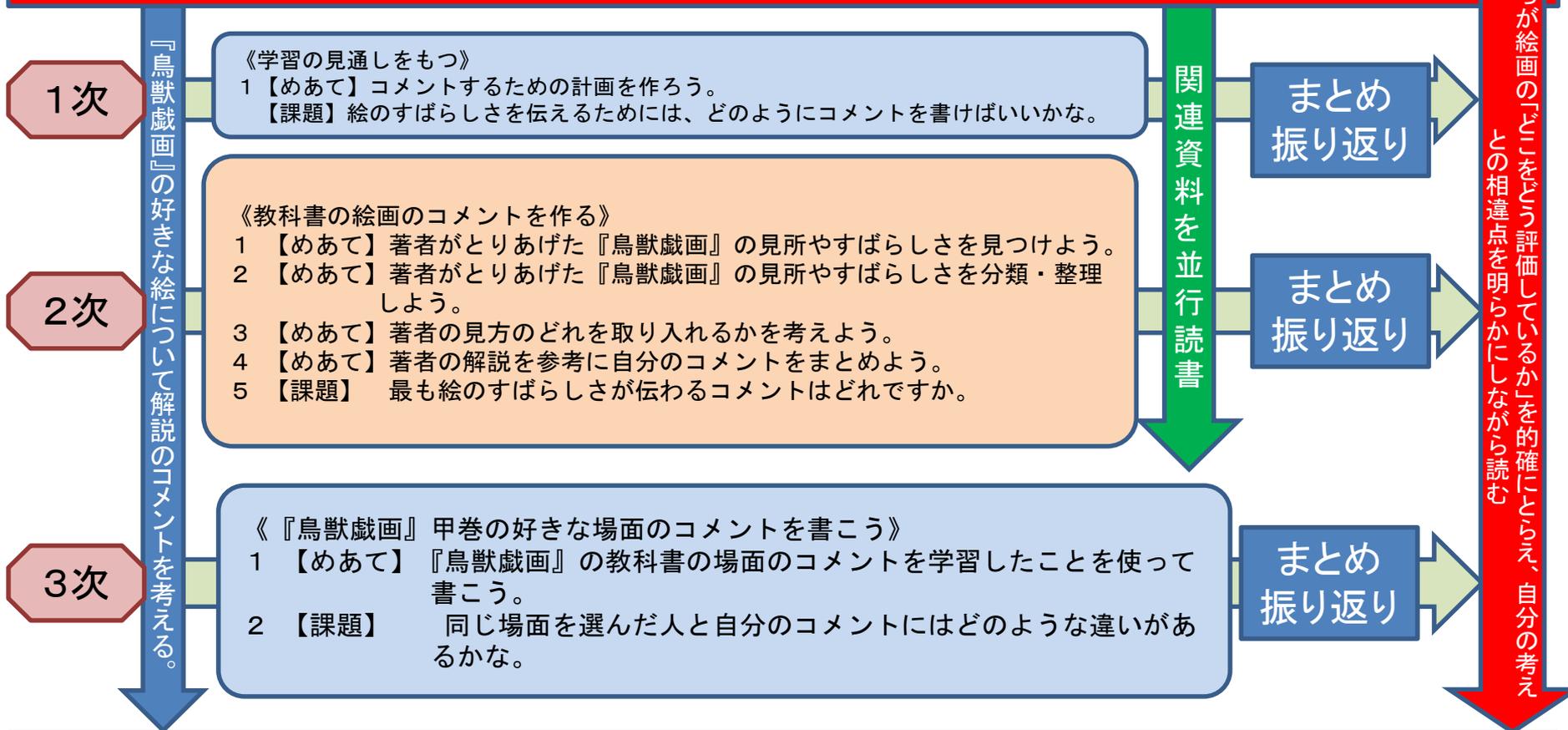


【単元の振り返り】（記述例）作品の魅力を紹介するのにふさわしい一文を見つけ、その理由を伝え合うことで、自分の考えとの共通点や相違点を見つけることができ、考えを深めることができた。本の帯に何を書いたらその本を手にとってもらえるかで、情景描写の引用は効果的だった。6年生が帯のついた本を手にとってくれたらいいな。

小学校国語科単元計画【第6学年：読むこと】

【単元のねらい】 筆者のものの見方や考え方について、友だちの絵の解説と比較しながら『鳥獣戯画』のコメントをすることを通して、自分の考えを明確にして読む力を高める。

【単元のめあて】 お気に入りの「鳥獣戯画」の場面のコメントをしよう。



【単元の振り返り】(記述例) 絵画のすばらしさを伝えるためには、「どの視点をどのように評価するか」を丁寧にコメントすることが重要だと分かった。評価のコメントには、必ずその人の思いが入っていることがわかった。また、同じ絵画でも人によって感じ方が違い、コメントにも違いが出ていたので、これからも人の意見を参考にしていきたいと思った。